

酉師浅井柳塘の他知へせむか

行跡不詳此家小身を寄

と守つじふまの許よりかこ世

てみそ合て此男家内へよんでらうせらるる真実かこれ内證と

奇にさだら養ひ金見らるより男の悪念み發し一入り麻痺

女房のみさるふ

損とさうさへ

真受ふよみうとくまかへ

心の悪エとくまへ金を我が物か

あまんとさるふは早う心横分別め

一ト腫ふ老母と妻子両合せへ

轉變のせとらび八坂のはめと

切書金と衣服を奪ひとり家

火をみ過んせしも早く聞て

縛らぬより是あの家をさく柄か

蛇を破ちて殺せし穴を事を

引出せし長物がりの省て記ス

文花藤入誌

せら武田信とも男妻子とくまに望

一討つ古柳を思ふかあまの

てくと死とるべの志風を

まもる

新聞圖會

第九



小作政三代
一子信重

ホリ平三

八坂